

第 1694 回例会報告

会長挨拶

『コロナ後に備えましょう』

会長 田中久登

ワクチンの接種も世界中で接種競争が起きています、日本は回数では17番目くらいで、100人当たり19番目とのことです。果たしてこのような競技競争のような事態でいいのか疑問に思います。また世界ではワクチンの偽物も出回っているとのことで、危険極まりない事態です。長年、ポリオワクチン接種活動をやってきた国際ロータリークラブ関係者も、まさかこのような現象が起きるとは思ってみなかつたことでしょう。今回もワクチン接種に関しては、低所得国、治安の不安定な国々の弱者・特に妊産婦や、高齢者にいつ行き渡るのか心配です。

日本でのワクチン接種の遅れと、東京オリンピック開催是非が話題となっています。NHKでは連日、オリンピック聖火の報道がなされています。8年も前から準備をしてきたことを考えますと、半年・1年前ならばともかく、この時期に開催云々を議論するのはどうかと思われます。開催の権限はIOCにあるとの事で、政治議論化するのは、やや疑問に感じます。

さて我が、諏訪湖ロータリークラブのメンバーもすでにワクチン接種をおられた方もいらっしゃると思いますが、ワクチン接種を完了しても、完全に防止できるわけでもありませんので、ご注意をお願いします。

もう1つワクチンに関して話題になっているものがあります、それはワクチンの副反応です、アナフィラキシーとも言います。現在日本で採用しているワクチンの副反応(副作用)は100万人に数例とのことです。しかし副反応のない薬はないと

令和3年6月10日(木)曇り

されています、通常の強度を弱めた一般市販薬でも一定の副反応があります。詳しくは当会員の中に医者の方がいらっしゃいますのでお聞きください。コロナ禍の収束までもう一息でしょう、ワクチン接種が行き渡るのを待ちましょう、そしてコロナ後に備えましょう

◇幹事報告◇

【連絡事項】

- 1) 来週の例会は通常通りマリオにて開催します。ふるってご参加ください。また先立って11時より理事会も開催されますのでご承知おきください
- 2) 来週の例会は本年度事業報告です。委員長をはじめとして報告義務のある方は必ず出席してください

第1694回例会

「久しぶりに職業奉仕を考える」

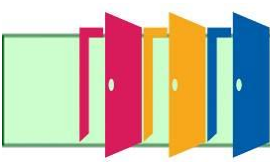
会員卓話 平山隆勇会員

1905年ポールハリスによりシカゴRCが創立され、当初相互扶助と親睦を中心とした活動が行われました。その後社会奉仕の概念が導入され、1908年にシェルドンの入会により、事業を

成功に導く奉仕の理念がロータリーに大きな影響を与え、やがて職業上の実践や倫理観をまとめたロータリー道徳律も採択され、職業奉仕の概念趣旨説明する小笠原委員長



が10年を経過して出来上がりました。その間に後のRIの元になる米国RC連合会ができ、クラブとRIの機能分担もできました(クラブ



は親睦と相互扶助、RIは奉仕理念の提唱とクラブ拡大)。その後個人奉仕か団体奉仕かの対立を和らげるため決議 23-34 が採択され、ロータリーの奉仕活動は



事務局会議室から中継

個人による奉仕が原則となりました。1927年には「職業奉仕」という言葉が初めて登場し、

1920年

～1930年の10年間はロータリーの職業倫理が社会に大きな影響を及ぼした時代でした。そんな真只中に東京 RC が創立され、日本のロータリアンには職業奉仕の概念がより大きな支持を得たのではないかと思います。第二次大戦後様々な国際レベルで解決する必要が求められる諸問題点が発生し、世界的規模の社会奉仕が必要となりました。ポリオ撲滅や飢餓追放、人間性尊重など RI が最も生き生きと活動した時期が 1960 年代～1980 年代でした。国際的な場で人道的奉仕活動が強調される一方で、職業奉仕の存在感は薄らいでゆきました。



一方日本ではシェルドンの奉仕理念こそ職業奉仕であり、職業奉仕がロータリーの根幹であると考えられてきました。1917年1月の『ロータリーの友』に前橋 RC の本田博己氏の「職業奉仕」はロータリーの根幹か？という投稿があり、多くのロータリアンが衝撃を受けました。「職業奉仕」という言葉が存在しなかった時代の「Service の哲学」を「職業奉仕」で語るのはちょっと強引なのではないか。世界のロータリアンは奉仕部門の一つとして職業奉仕を語り、日本のロータリアンは「奉仕

の理念」の職業への適応やロータリアンとしての職業観を語るというズレが生じている。「職業奉仕」という言葉ではなく、世界共通の「奉仕の理念」という言葉でロータリーの理念について議論を深めていこう。つまり、「奉仕の理念」がロータリーの根幹であるという主張です。アンケートの結果では、日本のロータリアンの反応はこれに賛成する率が 1～2 割と低いものでした。しかし、私の様に古い会員ではなく、最近入会した方々のほうが受け入れやすいかもしれません。

『ロータリーの目的』の第 2 項には職業奉仕がうたわれており、第 3 項にはロータリアン一人一人が個人として、また事業及び社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。と記載されています。少なくとも五大奉仕の一部門である職業奉仕の中で、シェルドンの奉仕理念は職業を成功に導くために、現在も通用する正しい個人奉仕の理念であると思います。これに加えて、自分の職業で培った専門的な技術や知識を生かして、対外的な奉仕活動(団体奉仕)を行うことも職業奉仕と考えて差し支えはないと考えます。さらに例会や対外的奉仕活動で学んだ奉仕の心(高い倫理感をもった心)で自分の職業を営むことも当然職業奉仕と考えてよいのではないかと思います。

(追加)2021年大河ドラマの主人公である渋沢栄一が1916年に出版した『論語と算盤』が今なお多くの経営者に読み継がれていることを最近知りました。論語はこの時代の道徳であり算盤は利潤を示しており、「利潤と道徳を調和させる」というシェルドンの奉仕理念にも通じるものであり、この時期はロータリーの道徳律が社会に大きな影響を与えた時代であり、渋沢はこの考えに影響を受けた可能性はゼロではないのではと妄想を膨らませてしまいます。



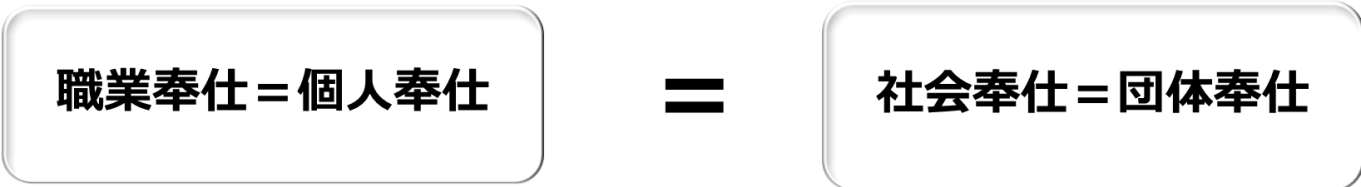
熱心に聴講するメンバーと ZOOM 参加メンバー



まとめ



職業奉仕



職業上得た経験、知識を対外活動に生かす

例会や対外活動で得た奉仕の心を個人活動に生かす



ラインでは、コロナワクチンの接種が話題になっています。皆様も一日でも早く接種できることをお祈りしています

